

# 水防災意識社会 再構築ビジョンに係る大規模氾濫減災協議会について

## 1. 水防災意識社会の再構築について

■平成27年9月関東・東北豪雨や、平成28年8月台風10号等では、逃げ遅れによる多数の死者や甚大な経済損失が発生

全国各地で豪雨が頻発・激甚化

近年の水害では例を見ない被害が発生

水防災意識社会の再構築

施設整備により洪水の発生を防止するもの

意識を根本的に転換

施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの



平成28年台風10号により、岩手県の大規模被害者利用施設では利用者9名の全員が死亡

従来からのハード対策に加え、「住民目線のソフト対策」や「危機管理型ハード対策」により、社会全体でこれに備える取組を行う。

### 《住民目線のソフト対策》

- 想定最大規模降雨での「洪水浸水想定区域図」を作成し区域を指定・公表する。
- 市町村等関係機関と水害リスク情報を共有するとともに、市町村による新たな洪水ハザードマップやタイムラインの作成を支援する。
- 避難行動の情報をリアルタイムで提供可能な水位計の増設、水位周知河川の追加

### 《危機管理型ハード対策》

- 越水等が発生した場合でも、決壊までの時間を少しでも引き延ばすような粘り強い堤防等の「危機管理型ハード対策」を推進

### 《従来のハード対策》

- 浸水によって大きな被害が発生する恐れの高い河川整備を重点的に進める。

## 2. これまでの取組みと予定について

- 長野県管理の河川において、水防災意識社会を再構築するため、河川管理者、市町村、气象台、消防、警察等からなる大規模氾濫減災協議会を10圏域(地域振興局単位)で設置
- 協議会において、現状の水害リスク情報や取組状況を共有し、地域の取組方針を今年度中に策定予定

## 3. 今後実施する事項

### 1 現状の水害リスク情報や取組状況の共有

- ・想定最大規模降雨での洪水浸水想定区域図の提供

### 2 地域の取組方針の策定

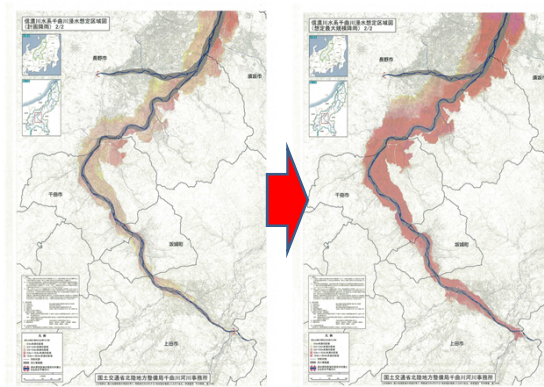
円滑かつ迅速な避難及び的確な水防活動等を実現するために各構成員がそれぞれ又は連携して取り組む事項をまとめた地域の取組方針を策定し、共有する。

- ・水害対応タイムラインの作成支援
- ・水位計・量水標の設置による水位周知河川の追加検討
- ・危機管理型ハード対策(ねばり強い堤防整備等)

### 3 フォローアップ

地域の取組方針に基づく対策の実施状況を確認する。また、本協議会を中心として、毎年出水期前に河川の合同巡視等を実施し、情報の共有を図る。

### 《浸水想定区域図例》



《水位計・量水標設置例》



鳥居川水位観測所

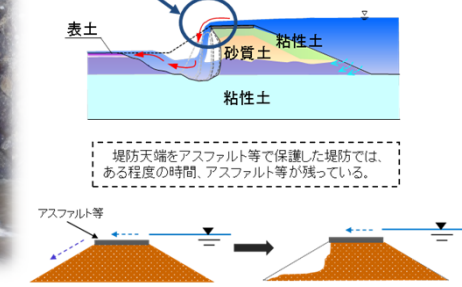
### 《水害対応タイムライン例》

	国土交通省	交通サービス	市町村	住民
台風発生 台風上陸 の可能性	○台風予報 ○台風に関する記者会見	体制の 早期構築	運行停止の可能性を 早めに周知	広域避難の可能性を 早めに周知
災害発生 の危険性	○連絡体制等の確認 ○協力機関の体制確認	○交通サービス 運行停止予告	○広域避難体制の 確認・周知	○防災用品の準備 早期に 広域避難を開始
台風上陸 12時間前	○台風に関する記者会見 (特別警報発表の可能性) ○大雨・洪水等警報 ○はん濫警戒情報	○リエソンの派遣 ○所管施設の巡視	○運行停止手順の 確認・公表	○広域避難勧告・指示 ○広域避難者の誘導・ 受入
台風接近 0時間前	○はん濫危険情報	○市町村長へ事態切迫 状況の伝達	○運行停止 ○施設保全・待避終了	○避難勧告・指示 ○屋内安全確保
台風上陸	○はん濫発生情報	○OTEC-FORCE活動 (道路閉鎖等) ○被害状況の把握 ○緊急輸送路の確保	○被害状況の把握 ○施設点検 ○運行見通しの 公表	早期復旧・再開が可能 となるように運行停止 ○支援の要請

### 《危機管理型ハード対策例》

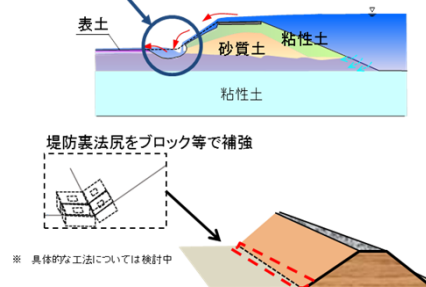
#### 堤防天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



#### 堤防裏法尻の補強

裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



※ 具体的な工法については検討中